

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ設置者	ガッコウホジツン キタノガケン 学校法人 北野学園								
フリガナ大学の名称	ウエダジョシタンキダガク 上田女子短期大学 (Ueda Women's junior College)								
大学本部の位置	長野県上田市下之郷乙620								
大学の目的	上田女子短期大学は教育基本法に則り、学校教育法の定めるところに従って大學教育を施し、豊かな教養と深い専門知識、そして責任感を具えた堅実中性的な社会的人格を有する女性の育成を目的とする。								
新設学部等の目的	近年の入学志願状況の変化に鑑み、幼児教育学科及び総合文化学科の定員を変更するものである。 幼児教育学科【入学定員減】 120 → 100 (△20) 総合文化学科【入学定員増】 60 → 80 ( 20)								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	幼児教育学科 【Department of Preschool Education and Care Learnings】	2 年	100 (120) 人	— 年次 人	200 (240) 人	短期大学士 (教育学)	令和5年4月 第1年次	長野県上田市下之郷 乙 620	
	総合文化学科 【Department of Interdisciplinary Learnings】	2 年	80 (60) 人	— 年次 人	160 (120) 人	短期大学士 (文化学)	令和5年4月 第1年次	同上	
計									
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
		科目	科目	科目	科目	単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	等
	新設	幼児教育学科	4 (4) 人	4 (4) 人	3 (3) 人	0 (0) 人	11 (11) 人	0 (0) 人	17 (17) 人
	設置	総合文化学科	3 (3) 人	1 (1) 人	3 (3) 人	1 (1) 人	8 (8) 人	0 (0) 人	24 (24) 人
	分	計	7 (7) 人	5 (5) 人	6 (6) 人	1 (1) 人	19 (19) 人	0 (0) 人	41 (41) 人
	既設	その他	0 (0) 人	1 (1) 人	1 (1) 人	0 (0) 人	2 (2) 人	0 (0) 人	0 (0) 人
分	計	0 (0) 人	1 (1) 人	1 (1) 人	0 (0) 人	2 (2) 人	0 (0) 人	0 (0) 人	
合計		7 (7) 人	6 (6) 人	7 (7) 人	1 (1) 人	21 (21) 人	0 (0) 人	41 (41) 人	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		16人 (16)		11人 (11)		27人 (27)		
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員		2 (2)		0 (0)		2 (2)		
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計		18 (18)		11 (11)		29 (29)			

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	12,665㎡	0㎡	0㎡	12,665㎡				
	運動場用地	6,908㎡	0㎡	0㎡	6,908㎡				
	小計	19,573㎡	0㎡	0㎡	19,573㎡				
	その他	40,722㎡	0㎡	0㎡	40,722㎡				
合計	60,295㎡	0㎡	0㎡	60,295㎡					
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
		6,448㎡	0㎡	0㎡	6,448㎡				
		(6,542㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(6,542㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	室	室	室	(補助職員人)室	(補助職員人)室				
専任教員研究室		新設学部等の名称			室数				
					室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕冊	学術雑誌 〔うち外国書〕種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
		( )	( )	( )	( )	( )	( )		
		( )	( )	( )	( )	( )	( )		
	計	( )	( )	( )	( )	( )	( )		
図書館		面積	閲覧席数	収納可能冊数					
		㎡							
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		㎡							
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		250千円	250千円	－千円	－千円	－千円	－千円
		共同研究費等		0千円	0千円	－千円	－千円	－千円	－千円
		図書購入費		2000千円	2000千円	－千円	－千円	－千円	－千円
	設備購入費		2000千円	2000千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	960千円	960千円	－千円	－千円	－千円	－千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等						
既設大学等の状況	大学の名称	上田女子短期大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	幼児教育学科	2年	120人	－	240人	短期大学士(教育学)	0.77倍	平成14年	長野県上田市下之郷乙620
総合文化学科	2年	60人	－	120人	短期大学士(文化学)	1.20倍	平成16年		
附属施設の概要		該当なし							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

## 学校法人北野学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
上田女子短期大学				上田女子短期大学				
幼児教育学科	120	-	240	幼児教育学科	<u>100</u>	-	<u>200</u>	定員変更(△20)
総合文化学科	60	-	120	総合文化学科	<u>80</u>	-	<u>160</u>	定員変更(20)
計	180	-	360	計	180	-	360	

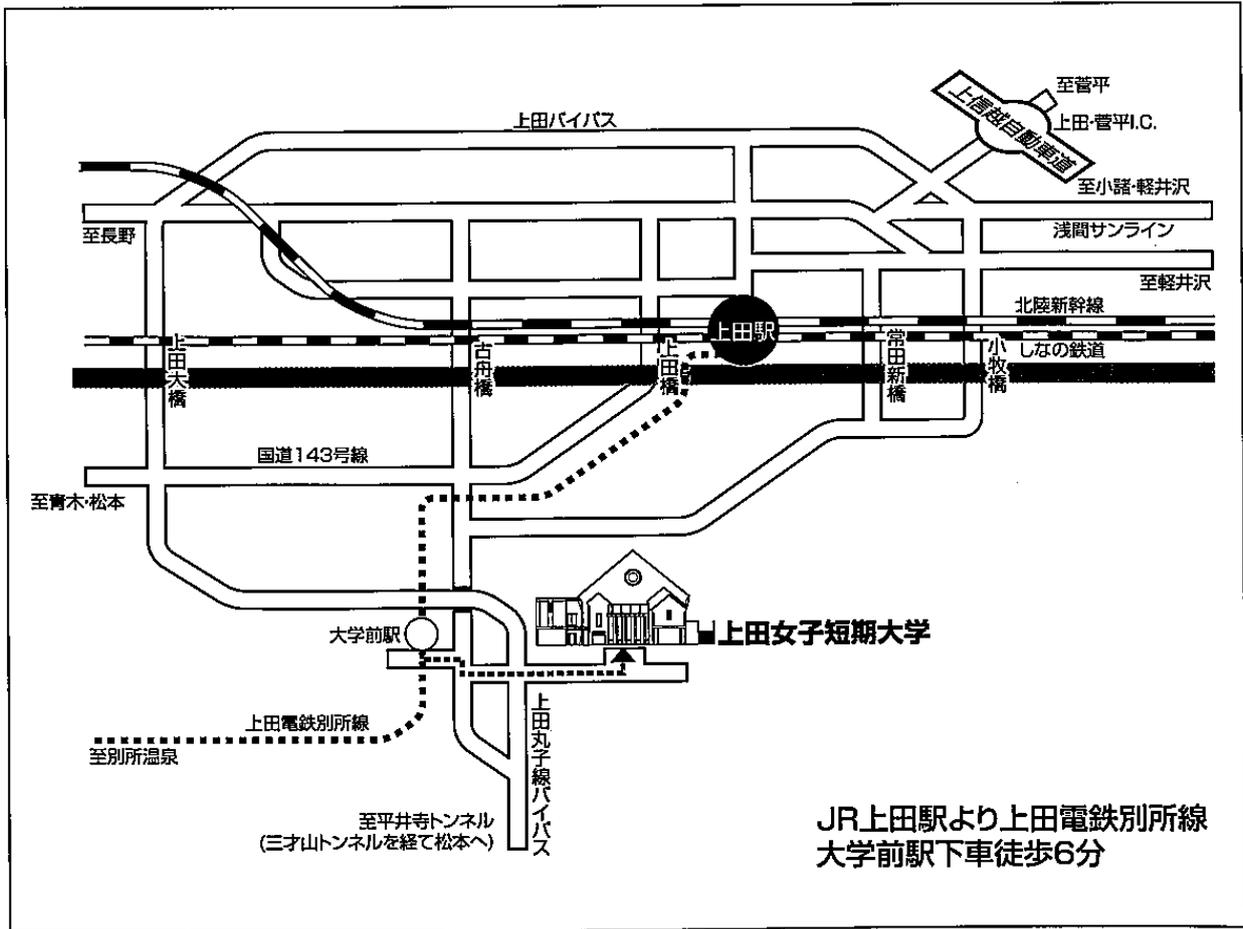
校地校舎等の図面

(1) 都道府県内における位置関係の図面

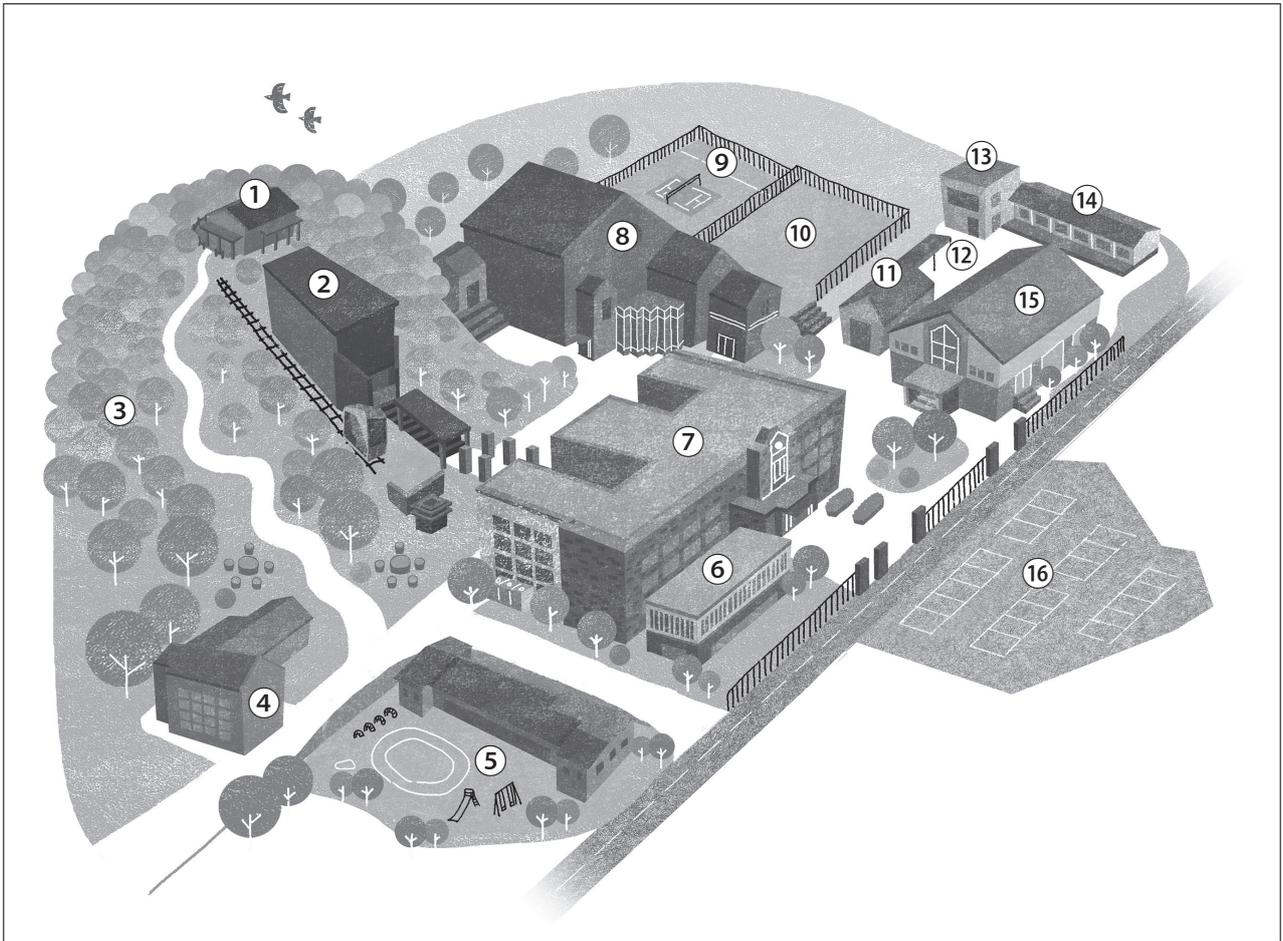


(2) 最寄駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面

## ●アクセス



# キャンパスマップ



① 茶室「しんようあん信養庵」

② 森の教室

③ 裏山

④ しおん紫苑寮

⑤ 附属幼稚園

⑥ 附属図書館

⑦ 本館

⑧ 北野講堂

⑨ テニスコート・  
ゴルフ練習場

⑩ グラウンド

⑪ ロッカー室

⑫ 駐輪場

⑬ 体育研究室

⑭ クラブ室棟

⑮ 体育館

⑯ 学生駐車場

# 上田女子短期大学学則

## 目 次

- 第1章 総 則（第1条～第3条）
- 第2章 学科、学生定員及び修業年限（第4条～第5条）
- 第3章 学年、学期及び休業日（第6条～第8条）
- 第4章 入学、退学、休学、転科、転学、再入学及び学籍（第9条～第20条）
- 第5章 教育課程（第21条～第26条）
- 第6章 卒業等（第27条～第34条）
- 第7章 学生納付金及びその他の費用（第35条～第40条）
- 第8章 職員組織（第41条）
- 第9章 教授会（第42条）
- 第10章 帰国子女、社会人、外国人留学生及び委託生（第43条～第44条）
- 第11章 長期履修学生（第45条）
- 第12章 科目等履修生及び研究生（第46条～第47条）
- 第13章 賞 罰（第48条～第49条）
- 第14章 図書館（第50条）
- 第15章 児童文化研究所（第51条）
- 第16章 観光文化研究所（第52条）
- 第17章 研究・教育施設（第53条）
- 第18章 厚生・補導施設（第54条）
- 第19章 特待生（第55条）
- 第20章 公開講座（第56条）
- 附 則

## 第1章 総則

(目的)

- 第1条 本学は教育基本法に則り、学校教育法の定めるところに従って大学教育を施し、豊かな教養と深い専門知識を具えた堅実中正な社会的人格を有する女性を育成することを目的とする。
- 2 幼児教育学科は、幼稚園教諭及び保育士の養成を主たる目的とする。
  - 3 総合文化学科は、地域社会及び職場において有用な女性の育成を目的とする。

第2条～第3条 (略)

## 第2章 学科、学生定員及び修業年限

(学科及び学生定員)

第4条 本学において設置する学科及びその学生定員は次のとおりとする。

(学科)	(入学定員)	(収容定員)
幼児教育学科	100名	200名
総合文化学科	80名	160名

第5条～第56条 (略)

## 附則

43 この学則は、令和5年4月1日から一部改正施行する。

この学則の学生定員については、令和5年の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用する。

(別表A～D、別表1～7) (略)

## 上田女子短期大学 学則変更の趣旨等を記載した書類

### 1. 学則変更（収容定員変更）の内容

本学の幼児教育学科及び総合文化学科について、入学定員・収容定員を令和 5 年度より下記のとおり変更する。短期大学全体の入学定員・収容定員は従来と同数とする。

学科	入学定員	収容定員
幼児教育学科	120→100 (△20)	240→200 (△40)
総合文化学科	60→ 80 (20)	120→160 (40)
短期大学計	180→180 ( 0)	360→360 ( 0)

### 2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

上田女子短期大学は、建学以来、教育理念である「敬愛、勤勉、聡明」に拠って女子学生の高等教育にあたり、短期大学士の学位を持つ多くの卒業生を社会に送り出してきた。

幼児教育学科では幼稚園教諭及び保育士の養成を主たる目的としながら、豊かな人間性も涵養し、社会貢献できる女性の育成を、総合文化学科では多種多様な職業の中から自分の進路を見出し、地域で活躍する有用な女性人材の育成を目指して、カリキュラムの構築をして、教育内容の充実に努めてきた。

しかしながら、近年の高等教育を取り巻く環境の変化から、入学定員・収容定員の充足率が学科によってアンバランスとなっている。資格取得支援、カリキュラムの充実、広報活動の強化、入試制度の検討、奨学金制度の見直しなどを実施しているが、幼児教育学科においては直近何年にも渡り入学定員を充足させることができていない。一方、総合文化学科においては、入学定員を超える入学者が集まっている。そこで、大学全体の収容定員を 360 人のまま変更せず、幼児教育学科の入学定員を 20 名減員し、総合文化学科の入学定員を 20 名増員することとする。

上記の変更により両学科の収容定員充足率をともに 100% に近づけ、経営規模の適正化を図るとともに、教育内容の質の向上を図ることとする。

### 3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

#### (ア) 教育課程

定員変更に伴う教育課程の変更は行わない。両学科のカリキュラムポリシーを再確認し、教育内容を損なうことがないよう配慮しつつ、今後も教育内容の充実のための見直しを行っていく。

(イ) 教育方法及び履修指導方法

教育方法と履修指導方法について、これまでと同様にきめ細やかな指導を実施するとともに、学生が学習成果を確実に修得するための教育方法の改善・充実に努める。

(ウ) 教員組織

教員組織において必要専任教員数は 2 名減員となる。短期大学設置基準において十分な教員人員を確保できている。

(エ) 大学全体の施設・設備

大学の施設・設備についての変更はない。今後も教育環境の充実に努めていく。

1. 学生確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

(1) 学生確保の見通し

① 定員充足の見込み

最近の入学者の推移〈資料1〉を見ても分かるように、近年総合文化学科については入学定員をほぼ確保できていると言える。一方幼児教育学科については、毎年度入学定員を確保できていない。一般に地方の短期大学は、地元密着性が高く、立地地域からの学生がほとんどである。本学も基本的には同様であるが、〈資料2〉にあるように本学においては新潟県出身の学生が比較的多いのが特徴である。

〈資料3〉にあるように、2020年度はコロナ禍初年度でオープンキャンパス(以下OC)への参加者が減少したが、その後は短大側の運営ノウハウの蓄積により、参加学生を戻しつつある。他の年度のOCの参加者数と出願者数の状況を参照すると、新定員は適切であることが見込まれる。

さらに、〈資料4〉の長野、新潟両県の18歳人口の推移を見ても、今後10年間でかなりの減少があるが、高校生のニーズに沿った丁寧な説明・募集活動により、両学科定員の見直しにより定員充足は十分達成可能であると思料される。

② 定員充足の根拠となるデータの概要

〈資料1〉 入学者の推移

入学年度	学 科	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	充足率
2018年度	幼児教育学科	120	82	82	82	80	66.7
	総合文化学科	60	70	70	70	69	115.0
	合 計	180	152	152	152	149	82.8
2019年度	幼児教育学科	120	104	104	104	101	84.2
	総合文化学科	60	61	60	60	59	98.3
	合 計	180	165	164	164	160	88.9
2020年度	幼児教育学科	120	106	104	104	99	82.5
	総合文化学科	60	73	73	73	70	116.7
	合 計	180	179	179	177	169	93.9
2021年度	幼児教育学科	120	93	93	93	87	72.5
	総合文化学科	60	58	58	58	57	95.0
	合 計	180	151	151	151	144	80.0
2022年度	幼児教育学科	120	96	96	95	94	78.3
	総合文化学科	60	91	91	89	88	146.7
	合 計	180	187	187	184	182	101.1
直近3年 の平均	幼児教育学科	120	98	98	97	93	77.5
	総合文化学科	60	74	74	73	72	120.0
	合 計	180	172	172	170	165	91.6

〈資料1〉は過去5年の入学志願状況である。過去5年間の定員充足率は66.7%から146.7%であるが、特に直近3カ年を平均してみると幼児教育学科77.5%、総合文化学科120%である。

〈資料2〉 本学入学学生の出身地比率

地 域	2020年入学生		2021年入学生		2022年入学生		直近3年の平均	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
長 野	153	90.5	123	85.4	158	87.3	145	87.9
新 潟	13	7.7	17	11.8	13	7.1	14	8.5
その他	3	1.8	4	2.8	11	5.6	6	3.6
合 計	169	100.0	144	100.0	182	100.0	165	100.0

〈資料2〉は本学入学学生の出身地比率である。本学の入学学生は関東甲信越地域からの入学者がほとんどである。なかでも従来より新潟県、特に上越地方からの入学者が多い。

〈資料3〉 OC参加者数推移

希望学科	2017	2018	2019	2020	2021
幼児教育学科	210	376	382	157	206
総合文化学科	215	213	247	76	211
未 定	22	20	19	6	4
合 計	447	609	648	239	421
出願者	152	165	179	151	187

〈資料3〉はOC参加者数の推移である。2019年までは600名を超える参加者がいたが、2020年以降のコロナ後は、中止や限定開催により参加者が伸び悩んでいる。

〈資料4〉 長野県・新潟県の18歳人口推移

年	長野県			新潟県		
	男	女	合計	男	女	合計
2022年	9,846	9,500	19,346	10,053	9,475	19,528
2023年	9,649	9,108	18,757	10,199	9,432	19,631
2024年	9,553	9,086	18,639	9,395	8,885	18,280
2025年	9,549	8,972	18,521	9,610	9,238	18,848
2026年	9,346	9,025	18,371	9,564	8,962	18,526
2027年	8,965	8,689	17,654	9,469	8,888	18,357
2028年	8,968	8,520	17,488	9,204	8,780	17,984
2029年	8,861	8,443	17,304	9,201	8,805	18,006
2030年	8,563	8,155	16,718	8,983	8,449	17,432
2031年	8,436	8,038	16,474	8,811	8,474	17,285
2032年	8,036	7,764	15,800	8,724	8,211	16,935
減少率%	▲18.3	▲18.2	▲18.3	▲13.2	▲13.3	▲13.2

長野県・新潟県HPより(減少率は2032年と2022年の比較)

## (2) 学生確保のための具体的な取り組み

### ① 学科内容の充実

教職課程(中二種)・学校図書館司書教諭課程を廃止し、新たに「デザインの学び」を取り入れることにより充実させていくことで、定員充足に資するものと思料する。学科の学び・課外活動の学びを通し、想像する力やグランドデザインを描く力(構想力等)を涵養していく。

専門性を深めるだけでなく幅の広い学びを促すために、資格報奨制度を設け学生たちの学びを活性化させることとし、さらに幼児教育学科、総合文化学科共に公務員対策講座を充実させている。

### ② 入試広報活動

#### ・受験生向けメディア及びWeb・SNSの活用

昨今のスマートフォン等の普及によるWeb広報を充実させ、LINE個別相談、インスタグラム等でのリアルタイムな投稿により、現役高校生との対話チャンネルを多様化している。

#### ・オープンキャンパス等の実施

年間5回のオープンキャンパスを実施しており、土曜開催・日曜開催を組合せ、保護者も参加しやすい環境を提供している。また、学生スタッフの活動も活発であり、「学生が前面に出るOC」を心がけている。現役高校生からアンケートにて、質問しやすい雰囲気や親切な対応との回答を得ており好評である。

今後も学生スタッフが主役となる独自色のあるオープンキャンパスを心がけ、現役短大生の生の姿や学び(特にデザインの学び)を広報していく。

### ③ 入試制度改革等

・推薦特待生の他、資格特待生入試、SG特待生入試といった選択肢を提供し、優秀な生徒の取り込みを行っている。

#### ・総合型選抜入試の拡充。

学力の3要素を図る為や高大接続の流れに沿った入試の実施。総合型選抜入試により、多様な人材がチャレンジしやすい環境を設定。入学後の学生の学びに活性化をもたらすと思料している。

〈資料5〉

上田女子短期大学 卒業生進路状況

①幼児教育学科

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
就職決定状況	卒業者	76	107	74	96	94
	就職希望者	72	100	70	90	93
	就職決定者	72	100	70	90	93
	就職決定率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	専門職比率	84.7	93	94.3	94.4	97.8
就職先内容	幼稚園	18	14	9	11	7
	保育園	30	61	37	45	51
	認定こども園	0	4	10	9	12
	施設	8	11	8	17	18
	託児所等	5	3	2	3	3
	一般企業	11	7	4	5	2

②総合文化学科

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
就職決定状況	卒業者	40	55	65	57	68
	就職希望者	37	53	59	50	60
	就職決定者	36	53	59	48	59
	就職決定率	97.3%	100.0%	100.0%	96.0%	98.3%
就職先内容	建設業	1	1	0	0	1
	製造業	5	17	10	9	7
	情報通信業	0	1	0	0	0
	運輸業・郵便業	1	1	2	0	1
	卸売業・小売業	11	14	22	20	23
	金融業・保険業	4	0	3	3	1
	不動産業・物品賃貸業	0	1	3	0	0
	学術研究・専門・技術サービス業	0	0	0	0	2
	宿泊業・飲料サービス業	5	5	7	3	8
	生活関連サービス業・娯楽業	1	6	3	3	2
	教育・学修支援業	1	0	0	0	2
	医療・福祉	1	2	1	2	4
	複合サービス事業	3	2	1	1	4
	その他サービス業	0	2	6	4	3
	公務	1	0	0	3	1
上記以外	2	1	0	0	0	

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

#### ① 幼児教育学科

幼児教育学科は、幼稚園教諭及び保育士の養成を主たる目的とするものだが、併せて乳幼児の保育に関する基礎的教養の修得を目的としている。教育分野のなかでも、最も基本的な幼児教育や子供の幸せを探究する児童福祉に関係ある教科を2年間で体系的に学習する。このなかで、保育に関する専門的な知識や技術を修得するとともに、豊かな人間性も涵養し、卒業後は、有能な幼稚園教諭・保育士等として社会貢献できる女性を育成することを目指している。

#### ② 総合文化学科

総合文化学科は、多種多様な職業の中から自分の進路を見出して、地域社会で活躍する有用な女性人材の輩出を目指して、教養教育を重視した幅の広い教育内容を導入している。企業・ホテル・図書館・福祉の現場などにおいて活用し、活躍するための知識・技能などを、学生一人ひとりの目的に応じて修得することが可能なシステムを持ち、地域社会に愛着を持ち理解を深めることを実現する。カリキュラム全般をとおして、ホスピタリティ精神に裏付けられたコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の向上をめざし、表層的でない「教養」を身に付けることによって、「考える力」や「想像する力」を養うことを教育目標としている。

### (2) 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

① 幼児教育学科については、50年の歴史と実績を具えており、地元で専門職に就いている卒業生が多数いる。〈資料5〉にあるとおり、毎年の就職決定率は100%であり、そのうち専門職比率は過去5年間で平均して92.8%と、例年9割以上が保育士・幼稚園教諭・施設職員等の専門職に就いている。最近では都心からの求人も寄せられ、実際に就職をする卒業生も増えてきた。地元のみならず、幼児教育学科卒業生への需要と期待は高いことが伺え、定員変更後も高い就職率を維持できると推測している。

② 総合文化学科については、多種多様な職業の中から自分の進路を見出すという目的に則して、〈資料5〉にあるとおり、幅広い分野への就職実績がある。また、就職決定率については過去5年間で平均して98.3%と高い水準を維持している。幼児教育学科同様、定員変更後も高い就職率を維持できると推測している。

## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	コイケ アキラ 小池 明 ＜平成22年4月＞		米国マサチュー セツ工科大学 大学院スロー ン・スクール修 了 (MBA)		上田女子短期大学学長 (平成22.4) 学校法人北野学園理事長 (平成27.4) ※小池産業株式会社取締役 (平成12.1) ※Kitano Arms Corporation取 締役 (平成23.7) ※北野合同建物株式会社取締 役会長 (平成30.6)